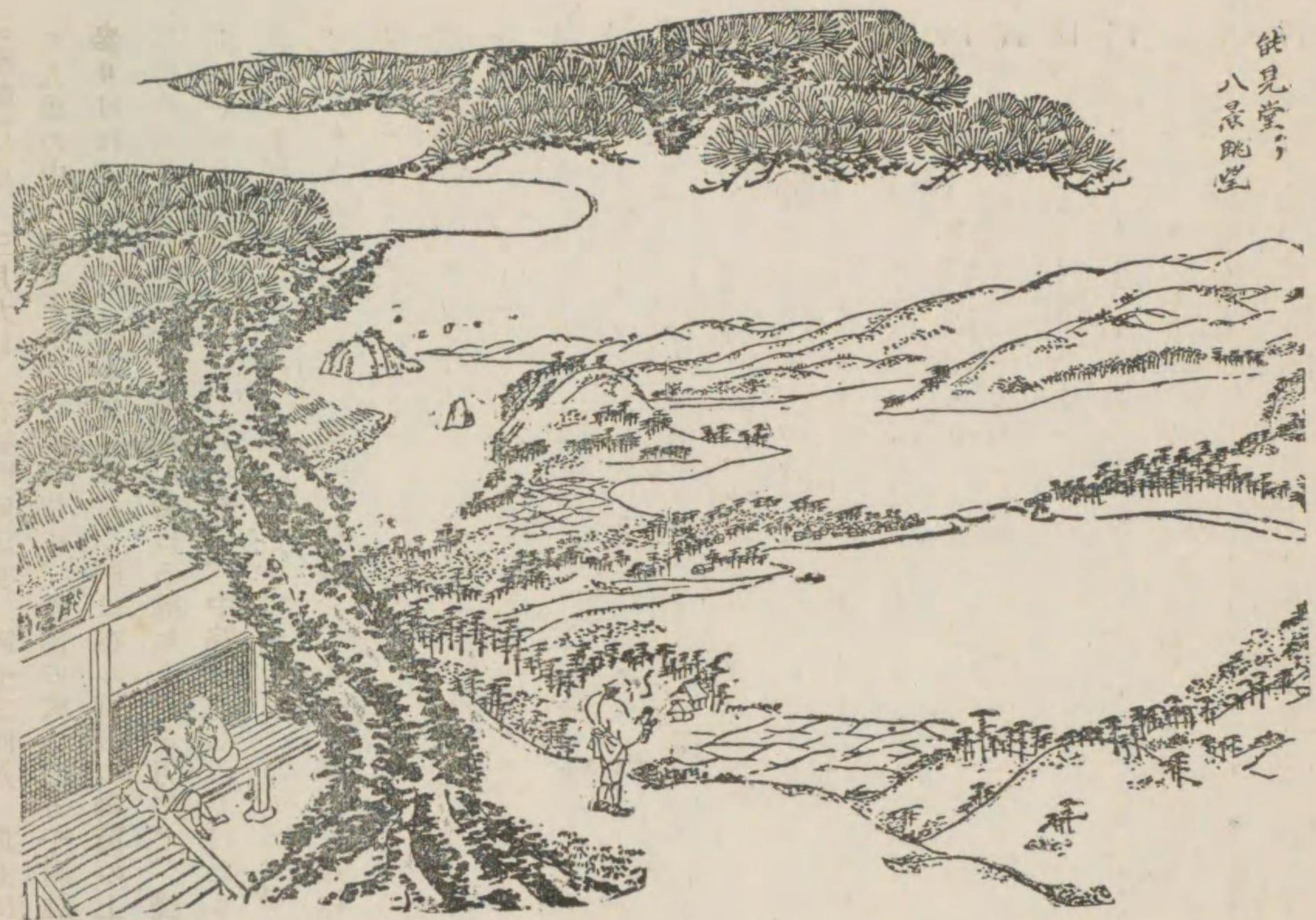


能見堂  
八景眺堂



にいひけるは、此所より景色を望み盡せるとて、能見堂と名  
附しは、文盲なるもの、授たる堂の名なりと笑ひしかば、老  
僧が答えしは、此堂號は、眺望のよきゆへ名附たるにあらず。  
本尊閻王の化度する因縁を有をもて能見と稱すると、佛經に  
見えたり。貴客文字に通じ給ふとも、佛道の奥旨を知らずは  
ぬゆへなりと笑ひしかば、書生また答ふる言葉なかりしとぞ、  
土人が傳説にはいひけれども、其體なる事はしらず。久世大  
和守廣之の、此邊を領し給ふ時、堂宇の廢せしを再建せられ、  
本尊に地藏尊を安じ、擲筆山地藏院と稱す。閻魔は、もと地  
藏の化現なるゆへ、再建には本尊を地藏に改けるにやあらん。  
堂に横額を掲ぐ。明朝の心越禪師が小篆に、能見堂と書せり。

古蹟

御所ヶ谷 稱名寺中、西の方にある阿彌陀佛のうしろの文庫跡  
より、切通え出る畠地を、土人等、龜山帝の皇居の蹟ゆへ、  
御所ヶ谷と唱ふる由を傳ふれども、龜山帝關東へ御幸のこと  
は、絶てなき事なり。仍て情舊記を考ふるに、伏見院踐祚の  
後は、太上皇三人おはせり。後深草を本院とも一院とも稱し、  
龜山を中ノ院と唱え、後宇多を新院と申す。後深草と龜山兩  
皇御兄弟にて、御繼を御争ひかましく、關東にても、世を疑  
敷思ひけるにや、兩皇後深草の御流を替るゝすえ奉らんと定  
めしは、執權時宗が相はからひけるとなん斯兩統相争ひ給ひ、  
終には御子孫に至り、南・北兩朝と分れし基なり。扱伏見帝の  
正應三年三月十日、天いまだ明ざるに、甲斐源氏の末孫(保曆  
一族とあり)淺原八郎爲頼といふもの、禁闕を浸すことあり。

【増鏡】には、三月九日、右衛門陣より、武士三四人、馬上に  
て九重の中へ馳入とあり。斯る程に、警衛の武士四五千騎馳  
参りければ、叶はじとや思ひけん、賊は夜の御殿の御茵の上  
にて自害す。其刀は、三條家に傳はる餘尾といふ刀にて、淺  
原が自殺せしなどいふことも出来て、中院山もしろし召たる  
などいふ聞えありて、心うくいみじきやうにいひあつかふ。  
中宮の御兄、權大夫公衡、一院の御前にて、此度の事は、禪林  
寺殿山御心合せられしなるべし。なだらかにもおはしまさば、  
まさり事や出来ん。彼承久の例も引出して申給へば、一院は、  
かくはあらむ。實ならぬとを、人はいひなすものなり。故院  
のなき御影にも、おぼさむ事こそいみじけれと、涙ぐみて宣  
ふを、心よはくおはします哉とて、なほ内よりの仰など、嚴敷  
事ども聞ゆれば、中院山新院後宇多も、いと驚き給ひ、いかゞ  
はせんとて、しるしめさぬ由の御消息など東へ遣されて後こ  
そ、事靜りにける。扱長月の初つかた、中院は御くしおろさ  
せ給ふ。是より中院を龜山法皇とこそ稱し奉る。始は禪林寺殿と  
稱し、其後南禪寺  
殿なり。按ずるに、此ころ中院山を、鎌倉へ移し申べしなどい  
ふ風説もありしにや、此御儲のために、御所造られんといひ  
し事もありし歟。夫ゆへ後世に至りては、關東へ御幸ありし  
と思ふは、實にそら事なり。

金澤文庫舊跡 稱名寺境内西の方、阿彌陀院のうしろの畠地を  
いふ。往昔金澤に學校ありしや。【大草紙】に、北條九代繁榮  
のむかし、學校有し舊跡といふ。されば其後、北條後守實  
時より、其子顯時、其子貞時が代に至り、正和五年の頃、文

金澤文庫

庫を造立し、和漢の書籍を納め、書物の首巻毎に、金澤文庫  
の四字を竪に書たる印を押たり。或はいふ、儒書には黒印、  
佛書には朱印を押たるといへども、今希に世に有ものは、皆  
黒印にてぞ有ける。又黒印も、大小のたがひも有けるといふ。  
足利の世となり、上杉安房守憲實執事の時、足利の學校を再  
興して、宋板の書籍を納めたるもの、彼所に今なを顯然とし  
て存せり。【大草紙】に、武州金澤の學校は、北條九代繁昌の  
昔、學問ありし舊跡なり。足利學校は、承和六年、小野篁國  
司たりし時建立なり。今度安房守憲實、足利は公方御苗字の  
地なれば、學領を寄附し、書籍を納め、學徒を憐愍す。され  
ば此頃、諸國大いに亂れ、學道も絶たりしが、金澤の學校を  
も再興して、日本一所の學校となれりと云云。公方成氏朝臣  
の時なり。其後寶徳のころより、關東は軍國となり、成氏朝  
臣も終に鎌倉を去て、下總國古河の地へ移り給ひ、また兩上  
杉も、河越・上州白井等へ走りければ、此時より鎌倉は蒼茫の  
地となりしゆへ、爰の學校も隨て頽廢し、書籍も悉く散逸し  
ける事なるべし。今稱名寺にも、むかし文庫の書籍の内、一  
冊も見えず。一切經の殘冊の破たるもの、彌勒堂に僅にあれ  
ども、定かならず。 金澤文庫の印如圖

如斯、每卷の始の系行の傍の下に、黒印を押たり。其印の大き、並に文字圖する如し。



北條顯時、其子貞顯、書を納る毎卷に奥書を加え、年月日を記し、姓名花押すゑたり。其後正慶二年五月、北條氏滅亡の砌、貞顯も高時が館にて自殺せり。夫より足利家の世となり、公方持氏朝臣の時、執事管領と稱する上杉安房守憲實が家臣、長尾左衛門尉景仲をして、足利學校再興せし砌、爰の文庫をも再修し、學領など附したりといふこと、前條にも出せり。宋板の書籍を寄附せし事、若干といえり。是も卷末の奥書に、年月日をしるし、姓名の下に寄進と書て、又其下に花押をすえけり。又成氏朝臣の時、故管領憲實が季子を管領とし、右京亮憲忠といえり。父が遺例に隨ひ、文庫へ宋板の書籍を寄進せしかど、無程寶徳三年に、御所の爲に討る。此後は鎌倉に君臣の争闘起り、終に君臣ともに、鎌倉を去て他邦に移れり。上杉の家臣等、憲忠が弟なる房顯を立て管領とせしかど、是も無程、武州五十子の陣中にて早世しぬ。仍て上杉顯定がはからひにて、故憲實の孫を養ひ、修理亮憲房と名乗らせ、山内上杉の家を繼せけり。然るに顯定が家臣長尾越後守景景、逆心を起し、越後にて猛意を奮ひけるゆへ、是を誅伐せんとて、越後に赴き戦ひけるが、逆徒勢ひ強く、終に家臣爲景が爲に、顯定討れければ、上杉の人々力を落せり。此顯定は、若年の時より、越後を出て關東に來り、上杉を助て威を振ひ、東國に住すること四十年餘に及べり。されば是よりいよく、上杉家の衰となれり。山内の憲房は、武州鉢形、或は上州白井に蟠り、扇ヶ谷の上杉は、江戸と川越に盤せり。斯る折節に、山内の憲房は、祖父憲實が舊蹟を慕ひて、金澤の文庫へ、

永正十二年の春、書籍を憲房が寄進せしとあるは、戰國の世にて、實に奇特なる事にぞ有ける。是を寄進の終にてありなん。學領の事は倍置。寺領を寄附する人もなければ、是より天文の初に至て、堂塔も破れ、文庫も破潰して、書籍もいつか散亂せし事なるべし。  
 觀金澤藏書而作 義堂鎌倉五山之僧也  
 玉帳修文講武餘、遣人來覓舊藏書、牙籤映日窺蟬斗、縹帙乘晴走蠹魚、圯上一編看不足、鄴侯三萬欲何如、照心古教君家有、收在胸中壓五車。  
 能仁寺舊跡 六浦村上行寺の東なり。今は村民住居の地となれり。往昔執事山の内の上杉安房守憲方入道道合の剋建なり。古記云、  
 上杉房州太守、築武州金澤能仁寺、創七字伽藍、請方暉和尚爲開山第一世、號山曰福壽、號寺曰能仁、太守有旨、陸能仁位列諸山者也、永徳三年、小春日、東暉曇所謹記、又本尊建立、永徳二年三月七日始之、同年四月廿一日終、住持東暉曇听、奉行德源檀那巨喜、上總州法眼朝榮作之、大檀那房州道合、德珠書之  
 とあり。方暉諱元圭、儉約翁の法嗣なり。永徳三年九月十六日寂す。  
 古え此寺の梁牌の銘、今建長寺龍峰菴にあり。其銘左に出す。  
 能仁寺佛殿梁牌銘  
 恭願皇圖鞏固而四海昇平、黎庶安寧、而五穀豐稔、

檀那前房州太守、菩薩戒弟子道合、敬白、左伏冀佛運帝運、歴永劫而綿延、寺門檀門、經萬年以昌盛、昔永徳二年、壬戌、四月日、開山方崖元圭、謹題、右  
 吉田兼好舊跡 六浦庄金澤に、しばらく住たる由見へたれども、今其舊地更にされるものなし。されども、此所にてよみたる和歌、彼家の集に見えたり。  
 武藏國かなさはといふ所に、むかしすみし家の、いとゞあれたるにとまりて、月あかき夜、  
 ふる里のあさちの庭の露のうへに、とこは草葉とやとる月哉  
 あつまにて、やどのあたりより、ふじの山のいとちかく見ゆれば、  
 みやこにておもひやられし富士のねを、軒端のをかに出てみる哉  
 海のおもていとどかなる夕暮に、かもめのあそぶを夕なきに浪こそ見えねはる／＼と、沖のかもめの立ののみして  
 鹽風呂の舊跡 是は紀州大納言頼宣卿此所え渡らせ給ひて、御療養の爲に召させられし跡地として野島村の東南の方えの、出崎の丘陵の地なり。今は其跡に稻荷祠を祀る。  
 墳墓  
 源範頼石塔 瀬ヶ崎村太寧寺の後にあり。【異本盛衰記】といえるものに云、範頼は、伊豆の修善寺におはせしを、梶原景時が、右大將家へ申て、修善寺へ押寄て討取、鎌倉へ持來り、

頼朝卿へ見せ奉り、其の首を此地に葬りし由を寺傳にもいへり。  
 顯時石塔 金澤稱名寺境内、西の方阿彌陀院の後に有。北條越後守平顯時なり。此人金澤に住してより、金澤を以て氏に稱し、正安三年三月廿八日卒す。  
 貞顯石塔 前と同所にあり。顯時の子にして、實時の孫なり。此實時が父祖は、執權平義時が五男、五郎實泰が男、越後守平時盛入道勝圓が子なり、初は陸奥掃部介といひ、後に越後守實時と稱し、稱名寺基立本願の人なり。其子顯時にて、貞顯は孫にてぞ有ける。扱貞時が卒後、高時いまだ若年たるに依て、基時と同敷執權加判たりし。正慶二年五月、北條亡滅の時に、一門の人々と同敷、高時が館に籠て自殺せり。  
 松田如法石塔 六浦上行寺本堂の前に有。寺傳にいふ、此法師といふは、北條時頼の家臣なりし由、日蓮宗を歸依して、上行寺を建立せり。もとは眞言宗にて有しが、日祐を歸依僧なるに依て、上行寺の開山とす。此日祐は、千葉胤貞の子なるゆへ、下總中山法華經寺第三祖なり。仍て上行寺を、中山の末寺となせり。此法師は宗門に名あるものにて、身延山・中山に、杉田法師が像ありといふ。  
 陣屋  
 米倉侯の陣營



鎌倉攬勝考卷之十一 附錄大尾

新編鎌倉志 索引

阿野四郎舊跡	三三八	足利家氏第跡	三五五	岩殿觀音堂	一三六	宇佐美判官祐泰第跡	三九
阿佛屋敷	一〇九	足利義兼第跡	三三三	壹岐前司基政第跡	三六	宇都宮下野前司泰綱第跡	三八
阿佛卵塔跡	八八・三三六	愛宕堂	三二六	泉谷	八八・一九七	宇賀山王權現	三六七
阿彌陀山	三九	一心院舊跡	四四・三六	泉井	八八・一八五	上神殿	二二
安國寺	一三五・三六七	一溪菴	六〇	和泉前司行方第跡	三三二	上杉憲方石塔	六五・二五三
安樂院	一三三・三三三	一覽亭山	三六一	稻荷社(淨妙寺)	四三	上杉憲忠第跡	三三三
安養院	一三三・三六	伊豆太郎左衛門尉第跡	三三八	稻村	一〇・三四五	上杉安房守憲基第跡	三三〇
安東左衛門尉第跡	三三五	伊具四郎入道某舊跡	三三三	稻村崎	一一〇・三四五	上杉定政舊宅	八一
天野藤内遠景第跡	三三〇	今小路	三三三	稻瀨河	一〇一・一八九	上杉中務少輔朝宗舊跡	三三三
綱引地藏	九〇・二八五	大懸谷	四〇・一九五	飯島崎	一三〇・一九二	右大將家廟	二八一
尼屋敷	九一・九七・三三〇	維新橋	六五	飯盛山	四四・九一	右大將家柳營舊蹟	三〇〇
赤橋	五・一〇九	新宮	一一・二三三	飯島	一三〇・一九二	雲外菴	三三三
甘繩明神	一〇〇・三三五	石井	一三五・一八五	運慶屋敷	九六・三三九	雲光菴	五九・七六
新居閻魔	一三五・八三	石切山	八三・一八八・三三四	産女寶塔	一一三・二六三	雲谷山	四三
顯時石塔	一四七	石切ヶ谷	一九七	雲外菴	二三五	雲龍菴	八四
油堤	一四〇・三六〇	蔭涼軒	六八・二五三	魚町	一八〇	畫窟	八三・二四三
青梅聖天	四七	巖本院	一一五・三五六	鶯谷	一九七	圓覺寺	六八・二三五
明石	四六	岩井堂	八一	瓜ヶ谷	一九五	圓應寺	二八四
鎧摺山	一三七	巖窟不動	八一	梅谷	九五・一九	圓通寺	一四一・三二七
朝夷奈切通	一三九・一八三	岩窟小路	一九二	鶯島	一一八・三三九	圓可寺	三七七
				歌橋	三九・八四	會下谷	九三・二七五

新編鎌倉志・鎌倉攬勝考索引

ア イ・キ ウ エ・エ







小御供所	六	國清寺跡	九二・九八	三艘浦	一四〇・三六〇	實朝公塔	三三四
巨福路坂	四七・一八三	彈琴松	一一二	三天磐	三五八	實朝の塔	八三
巨福呂谷	一九七	後藤大夫判官基綱第跡	三三〇	山堂	三七	猿島	一五〇・三六三
弘法護摩堂跡	二六・二六〇	御前谷	九一・四七・一九七・三七三	山王堂谷	九四・二九七	座不冷壇所	六・二二二
古河御所之次第	三三三	御所入	九九・一九一	山王堂跡	一六	坐禪窟	七五・二八・三五七
古河御所義氏朝臣舊跡	三三三	御靈宮	一〇四	逆川	一五・一八九	坐禪巖	九七
籠釋迦	二四三	虎頭岩	七五・三三九	酒の宮	七	相模八郎時隆第跡	三三二
米町	一一三	金剛院	六〇	坂下村	一八二	相模左近大夫將監時定第跡	三三一
穀町	一八〇			鷺浦	一三〇・一九三	相承院	三三一
五大堂	四四・二七八			佐々木壹岐前司泰綱第跡	三二	相馬天王祠	一一・三三三
五靈の社	三二六			佐々木三郎昌寛法橋第跡	三六	相馬次郎平師常第跡	九〇
五輪窟	三四三			佐介谷	九八・一九八	相馬天王嗣	三三三
悟眞寺	一一三			佐介亭	九八	相馬天王嗣	三三五
悟本菴	八四・三四四			佐介谷稻荷社	三六	莊嚴院	三三三
牛蒡谷	四六・一九五			佐々目谷	一〇〇・一九八	貞顯石塔	一四七
虚空藏堂	一〇五・二七七			佐介藥師堂跡	二八五	鞘阿彌陀	三五九
極樂寺	一〇六・二七七			佐竹屋敷	一一三		
極樂寺村	一八二			佐竹四郎秀義第跡	三三七		
極樂寺切通	一八二			佐賀岡	一九九		
權現山	一四七			佐貫四郎第跡	三三六		
腰越村	一一・三四四			佐野小太郎基綱第跡	三三八		
御最後川	一三七			左近大夫將監公時第跡	三三七		
ござい川	一三七			左近大夫將監義政第跡	三三七		
子死戀	一一二			實朝社	九・二三		

サ

シ

重忠屋敷	一四	正濟菴	六〇	釋迦堂谷	四〇・一九五	住吉明神	一一三・三六・三五七
宿龍池	七五・三六	將軍家六代御所跡	三〇一	釋迦堂跡	二八七	住吉城	三三三
朱たるき窟	三四一	勝上嶺	五・一八九・二三	實際菴	六〇	雀浦	一四九・三六〇
新御堂	二九六	勝縁寺谷	六〇・一九七	珠泉菴	七六	數珠掛松	一一一
心平寺	四七・二六四	勝縁寺廢跡	二九八	寂外菴跡	九四・二七六	硯池	一一・三四九
心無村	一三九	證菩提寺舊跡	七	蛇居谷	九四・二七六	筋替橋	一四・八四
白旗明神	七・六・二二二	稱名寺	一四五・三六七	侍從川	二八・一八九	須地賀江橋	一八〇
柴崎村	一四七・三六〇	聖天島	一八・三五八	侍從川橋	一四〇・六一	杉本觀音堂	四〇・六二
色天無熱池	七六・三五五	聖福寺舊跡	一〇九・二九九	神宮寺	三六一	杉田如法塔	三五五
正覺院	一一・三三三	松月菴	八四	神武寺	八	嵩山	五〇・三三〇
正覺菴	六七	松鶴菴	八四	十二箇院	一六	諏訪屋敷	一〇〇
正覺寺	一三三・二七二	松源寺	八〇	十二所村	一一・三三三	諏訪大夫盛隆第跡	三三二
正宗菴	五八・二五五	上行寺	一四〇・三七一	十一人塚	四・二八一	諏訪兵衛入道第跡	三三五
正源菴	六七・七六	常樂寺	七七・二五三	十玉堂橋	三六	周防前司親實舊跡	三三一
正隆菴	八四・三四三	淨妙寺	四二・一八一・三四五	七里濱	二〇・三四六	瑞泉寺	二八・三三〇
正印菴	六七	淨智寺	六六・三四四	壽福寺	七・八四	瑞龍菴	四三・八四
正紹菴	六七・三四五	淨光明寺	八八・七三	壽德菴	八一・三四一	瑞光菴	七六
正本菴	五九	淨國院	二・二三三	壽昌院	七六・三三九	瑞林菴	六〇
正法院	六〇	淨泉寺	二八五		六〇		
正法寺	二五三	慈恩院	九〇・二七三				
正續院	二三八	慈恩寺	一一三				
正傳菴	七六・三三九	慈恩寺舊跡	一一三				
正受菴	五九	慈照院	一〇四				
正統菴	五九・三四	慈眼院	一〇四				

ス

セ



千體地藏堂	一三〇・七一	大雄菴	六〇	平有時第跡	三三一
千貫松	一三八	大義菴	七六	平義時墓	三三六
專光寺	一四〇・七一	大寶院	一四七	平實時舊跡	三三〇
專修院	一三〇・七一	大覺池	三三三	平顯時・貞顯石塔	三七五
淺間山	一七	大巧寺	四三・二二・六三	玉繩村	七九
禪興寺	六三・四九	大休寺舊跡	四三・二九五	玉繩道	一八三
禪居菴	五九・三三	大智菴	五九	田代觀音堂	一四・六三
禪昌菴	四三	大長寺	七九	田代屋敷	一四・三七
錢洗水	九九・八六	大慈寺舊跡	四四・二九六	竹御所舊跡	二四・〇六
施藥院使良基舊跡	三〇	大圓菴	六七	試の不動	二五
青松院	六八・七六	太寧寺	一四九・三七〇	俗雲菴	六〇
星井寺	二八七	太平寺	一七	鐘場	二八・三五九
積翠菴	八四・二四四	太宰少貳景頼第跡	三三八	段蔓	二〇六
清涼寺谷	九三・一九七	尊氏屋敷	四三・六〇・六六	武内社	六
清涼寺廢跡	二九八	尊氏廟	六一・三四八	武田屋敷	九五
善導塚	二九・七二	塔辻	一〇〇・二二・九一	武田三郎信忠第跡	三三〇
善昌寺	二四	袂浦	一一・二四八	武田伊豆守信光入道光蓮第跡	三七
善雄寺	一四九	宅間ヶ谷	四一・九五	巽荒神	三二
瀨崎	一四〇・三六〇	園子窟	三三三	龍口明神	九六・三三五
瀨戸	三六〇	短尺石	四〇	多古江河	一一・三四九
瀨戸橋	一四三・三六一	互の御影	八九	高時宅地	二七
瀨戸明神	一四二	平時頼茶毘所	六五	高時入道門葉頸塚	二九
瀨戸辨財天	一四三・三六三	平重時舊跡	三三三	高石	三六
		平朝時第跡	三七		一三八

ソ

タ

チ

兒淵	二四・二七・三五	鶴岡大別當舊跡	二八	天池菴	七六・二四〇	時氏墳墓	三三六
千葉屋敷	一〇〇・三三	鶴龜石	七・二三	傳芳菴	五九	兜率嶺	五〇・三一
竹林菴	六〇	月影谷	八八・〇九・一九	傳衣菴	六〇	飛石寺	一四一
知足菴	四三	綴喜里	九五・九一	傳宗菴	七五・三三九	飛石	三六三
智岸寺谷	八八・一九七	津村	一一・三四四			どこも地藏	八八
智岸寺廢跡	二九八	爪切の曼茶羅	二二	砥上原	一一・三四八	等覺院	一三・三三三
筑後左衛門尉朝重第跡	三三八	突渡崎	一三八	德泉寺	六三	等慈菴	七六
長生菴	五九	辻町	一一五・九三	德泉寺舊跡	六三・三〇〇	道智塚	九四・二七六
長好院	五八・三五	辻藥師	一一五・六三	德宗權現社	一〇〇・二六三	藤九郎盛長屋敷	一〇〇・三三
長壽寺	六〇・三七	都史菴	五九	東勝寺	一一・二一六	藤次左衛門入道第跡	三八
長壽院	六二	通玄菴	五九	東勝寺舊跡	一一・二一九	同契菴	五九・二三五
長樂寺	六二	土屋義清第跡	三三八	東慶寺	二五三	同證菴	六
長者窪	一三五・二六八	寺の内	九九	東林寺跡	八八・九〇・二九八	土佐房屋敷跡	一一・二二
長勝寺	一三五	手子明神	一四八・三六七	東光寺廢跡	二七・二九三	土佐房屋舊跡	三七
頂門菴	七六	照天姫松	一四三・三三	東雲菴	七六	名越	一一・二九二
定正菴	七六	天台山	三八・一八六	東漸菴	四三	名越切通	一三六・二八四
定光菴	八四	天狗堂	一〇〇	東宗菴	六〇	名越山王社	三六
直心菴	四三・二四七	天狗腰掛松	一三六	鳥合原	一四・九〇	名島	一三七・三八
鶴岡八幡宮	三・二六	天神宮	一四〇	常磐里	一〇三・一九一	泣面崎	一七・三五九
		天然寺	一四〇	常磐御所跡	一〇三	啼藥師	九二・七五
		天源菴	五八・二三四	常葉の松	一三	七觀音谷	一〇〇・一九八

テ

ト

ナ



刀切村 一五〇・三〇	如意菴 七六・四〇	旗立山 八八・二八六	法王の窟 三四一
滑川 四一・八九	辰松 一一三	畠山重保石塔 一三五・三三六	望夫石 八四・三四三
長屋 二五三	野島村 一四八・三六〇	畠山重忠第跡 三三八	芳雲菴 四三
長井左衛門大夫泰重第跡三二	範頼石塔 一五〇・三七五	濱名石塔 三一九	報恩寺 一六
長井宮内權大輔時秀第跡三六	教定朝臣第跡 三三九	播磨屋敷 九五・三三〇	報恩寺廢跡 二九六
中務權大輔教時舊跡 三三〇	能見堂 一四八・三七七	宮の窟 三三三	報國寺 四一・二六一
夏島 一五〇・三六三	のつけん堂 一四八	針磨橋 一〇九・一八四・三四四	寶戒寺 一九・二六二
内藤氏一家の墳墓 一九・七二	能仁寺舊跡 一四一・三四	馬場小路 一九〇	寶泉菴 五八・三四四
南條左衛門尉第跡 三三五	能登前司光村舊跡 三三二	馬場迹 二二五	寶珠菴 五八・七六・三四
二階堂村 一八一	能登前司光村舊跡 三三二	盤陀石 六七・三四五	寶龜菴 七六
二階堂廢跡 二九一	離山 七二・八七	八王子宮 一一一	寶冠の彌陀 八九
二位禪定尼御所の亭跡 三〇六	花谷 一三三・一九六	梅洲菴 三一九	白鷺池 六八・三三五
仁田四郎第跡 三三六	鼻缺地藏 一四〇	梅岑菴 五九	白雲菴 七五・三三九
仁田四郎拔穴 一四・三五八	裸島 一五〇・六二	梅立寺 九一	白龍窟 三五八
忍性石塔 九〇・三三六	裸地藏 一四〇	保壽院舊跡 一七・三九六	比企谷 一三三・一九五
西御門 一六	原田地藏 一四・二六四	法華堂 一五・三七九	比企能員舊跡 一三三・三三六
西御門村 一八一	長谷小路 九六・一九一	法性寺 九七・一九八	比企朝宗舊跡 三三一
日光權現社 一四〇	長谷觀音堂 一〇三・二六七	法住寺谷 二九八	比企右衛門尉同藤内第跡三六
日光山別當宿院舊跡 二九七	長谷村 一八二	法樂寺 二四五	光堂 二七
日蓮袈裟掛松 一一・三四七	佛智菴 四三	法泉寺谷 九一・一九七	柄杓山 七
日蓮乞水 一五二・二八六	富陽菴 七六・三九	法泉寺廢跡 二九八	人丸塚 六六・三八
日蓮土籠 一一二	筆捨松 一四八・三三三	法泉寺廢跡 二九八	

東御門 一六・一九〇	佛智菴 四三	北條氏の舊跡 二六二	正宗屋敷跡 九六・三三九
日金地藏堂 二八四	富陽菴 七六・三九	北條武藏守平經時墳墓 三三六	滿福寺 一一二
平方 三六〇	筆捨松 一四八・三三三	北條時政山莊舊跡 三三七	萬福寺 三四九
飛泉窟 三五八	夫婦松 一四八・三三三	星御堂 一〇五・一八六	萬春菴 四三
引越村 一四・三三〇	武庫山 八八・八六	星井寺 一〇五	萬年右馬允第跡 三三五
巖そら大師 三三四	伏見冠者廣綱舊跡 三三八	星月夜の井 一〇五・一八五	明月院 六五・二五一
姫宮 七九	不老水 五八・一六六・二三三	本目 一四七・四八	明月院 二七八
毘沙門堂 三六七	不動堂 七九・八七	本覺寺 一三三・二六四	明鏡堂跡 六九・三三七
毘毘小路 四・三〇	福石 一一五・三五八	本國寺舊跡 二九四	三浦道寸城跡 一一三・三三三
毘毘橋 一八四	福嚴寺 一七	補陀落寺 一六・二七一	三村泰村舊跡 一一三
屏風山 二二・八七	福生菴 六七	類焼阿彌陀 四四	三浦駿河前司義村第跡 三三八
備前三郎長賴舊跡 三三七	蛇谷 一四・三四・一九六	梵字窟 三四三	三善康信第跡 三三六
百軒島 一四九	へそ薬師 一四九	回御影 一一	御堂御所跡 四〇・三九
尾藤谷 六三・一九六	辨谷 二六・一九六	松岡 六七	御興嶽 一〇三・一八六
尾藤太第跡 三五	辨慶腰懸松 一〇九・三四〇	松岡稻荷 七・二二	御興崎 一〇三・一八六
二つやぐら 二八	紅ヶ谷 一九六	松葉ヶ谷 一三五・一九六	水無能瀬川 一〇・八九
藤原爲相石塔 九〇	徧界一覽亭 二九・八九・二五七	町谷村 三六〇	南御堂 三九・二八八
藤澤左衛門尉清親第跡 三三三	平左衛門尉第跡 三三五	魚板石 一八・三五六	亂橋 二五・八四
深澤 一〇一	北斗堂 九・二七九	政子塔 三三五	亂橋村 一八二
深澤切通 一八二	北條屋敷 一九	政子濱御所の舊跡 三〇六	民部大夫行光第跡 三三九
佛日菴 七五・三三九		政子御産所舊跡 三〇六	美女石 三六三
		政村山莊舊跡 三三二	



六浦 六浦橋 六浦川 武藏大路 武者所宗親第跡 棟立井 室木村 村上判官第跡 陸奥七郎業時第地 無量寺 無量寺谷 無熱池	一四〇・三三〇 一四〇・三三〇 一四〇・三三〇 一八三 三三六 二六・一八五・二六〇 一五〇・三六〇 三三六 三三八 九七・二五六・二九八 九七・一九八 一一五・三五八	杜戸明神 唐原 盛久頸座 護良王石塔 文殊堂 文覺屋敷 文覺旅亭舊跡 毛利藏人大夫季光第跡	一七 一一三・二四八 一〇一・三三六 二五九 七六 三九 三三 三三	山城前司俊平舊跡 宿屋光則舊跡 藥王寺 藥師堂谷 藥師堂 双の稻荷 泰時墓 夜光寺 世計明神	三三三 一〇一・二七六・三三三 一四五・二七五 二五・一九五 九九・二七九 九六 九六 九二 一三九	頼朝屋敷 頼朝腰掛松 頼朝泉水 頼朝遊館礎石跡 頼朝將軍御臺の墳墓 頼朝以後代々將軍屋敷 好見 吉田兼好舊跡 横小路 横手原 義高石塔 義時墓 義朝の舊跡 米倉侯陣營	一五・三〇〇 一三八 一三八 一三八 三三六 二一九 四六 一四三・三三五 一九〇 一〇 二五六 一六 二四二 三三五
妙本寺 妙法寺 妙高菴 妙香池 妙光菴 妙喜菴 明月院(ミを見よ)	一一三・二六四 二六八 五八・二三四 七五・三三九 一一・三六三 七六 六 六・三五三	八坂不動 八松原 矢拾地藏 柳原 山内 山内莊 山ノ内村 山内管領上杉十跡 山内首藤瀧口三郎經俊舊跡 山内先次郎左衛門尉宣政舊跡	八九 一一三 九〇・二七三 一一三・二五 六三 六三 一八 三三 三三 三三	雪ノ下 雪ノ下村 由比濱 行合川 行逢川 熊野山 結城上野前司入道日阿第跡 結城大藏權少輔朝廣第跡三五	四 一八一 四・九四 一一 二二 三四七 四三 三三八	來迎寺 龍門菴 龍興菴 龍淵菴 龍華寺 龍華山眞際精舎	一八・二六一 六 五 五 五 一四四・三六九 六
六浦 六浦橋 六浦川 武藏大路 武者所宗親第跡 棟立井 室木村 村上判官第跡 陸奥七郎業時第地 無量寺 無量寺谷 無熱池	一四〇・三三〇 一四〇・三三〇 一四〇・三三〇 一八三 三三六 二六・一八五・二六〇 一五〇・三六〇 三三六 三三八 九七・二五六・二九八 九七・一九八 一一五・三五八	杜戸明神 唐原 盛久頸座 護良王石塔 文殊堂 文覺屋敷 文覺旅亭舊跡 毛利藏人大夫季光第跡	一七 一一三・二四八 一〇一・三三六 二五九 七六 三九 三三 三三	山城前司俊平舊跡 宿屋光則舊跡 藥王寺 藥師堂谷 藥師堂 双の稻荷 泰時墓 夜光寺 世計明神	三三三 一〇一・二七六・三三三 一四五・二七五 二五・一九五 九九・二七九 九六 九六 九二 一三九	頼朝屋敷 頼朝腰掛松 頼朝泉水 頼朝遊館礎石跡 頼朝將軍御臺の墳墓 頼朝以後代々將軍屋敷 好見 吉田兼好舊跡 横小路 横手原 義高石塔 義時墓 義朝の舊跡 米倉侯陣營	一五・三〇〇 一三八 一三八 一三八 三三六 二一九 四六 一四三・三三五 一九〇 一〇 二五六 一六 二四二 三三五

龍源菴 龍峰菴 龍口寺 龍穴 龍池 利濟菴 楞伽院 靈山崎 靈巖院 靈芝菴 理智光寺	五八・三四 五八・三四 一一三・三四 一一七 三五六 七六 七六 一〇・一九四 八一 四三 二八・三五九	六本松 六代御前塚 鹿岩 廊の御堂 朗然居士畫像 和賀江島 若宮大路 若宮小路 若宮舊跡 和田胤長屋敷 和田義盛第跡 噓十玉窟	九五・三八 一三七 七五・三三八 二八九 五三 一〇・一九三 四 一九〇 三三三 二五・三九 三三八 三四一	六國見 六角堂 六角井	六五・一八七・二五〇 七・二三 一三〇・一八五
蓮來院 蓮華寺跡 蓮華池 聯燈菴 冷泉爲相卿墓碑 嶺松寺	一一九・二七一 九九・二九九 三五八 八四 三三六 一五〇・三九一	和賀江島 若宮大路 若宮小路 若宮舊跡 和田胤長屋敷 和田義盛第跡 噓十玉窟	一〇・一九三 四 一九〇 三三三 二五・三九 三三八 三四一	六國見 六角堂 六角井	六五・一八七・二五〇 七・二三 一三〇・一八五

索引終



昭和四年八月十日印刷納本  
昭和四年八月十五日發行

版權所有



發行所

雄

山

閣

東京市神田區今川小路三ノ九

電話九段二三一四番  
振替東京二四二二七

編輯者

蘆田伊人

發行者

東京市神田區今川小路三ノ九  
長坂金雄

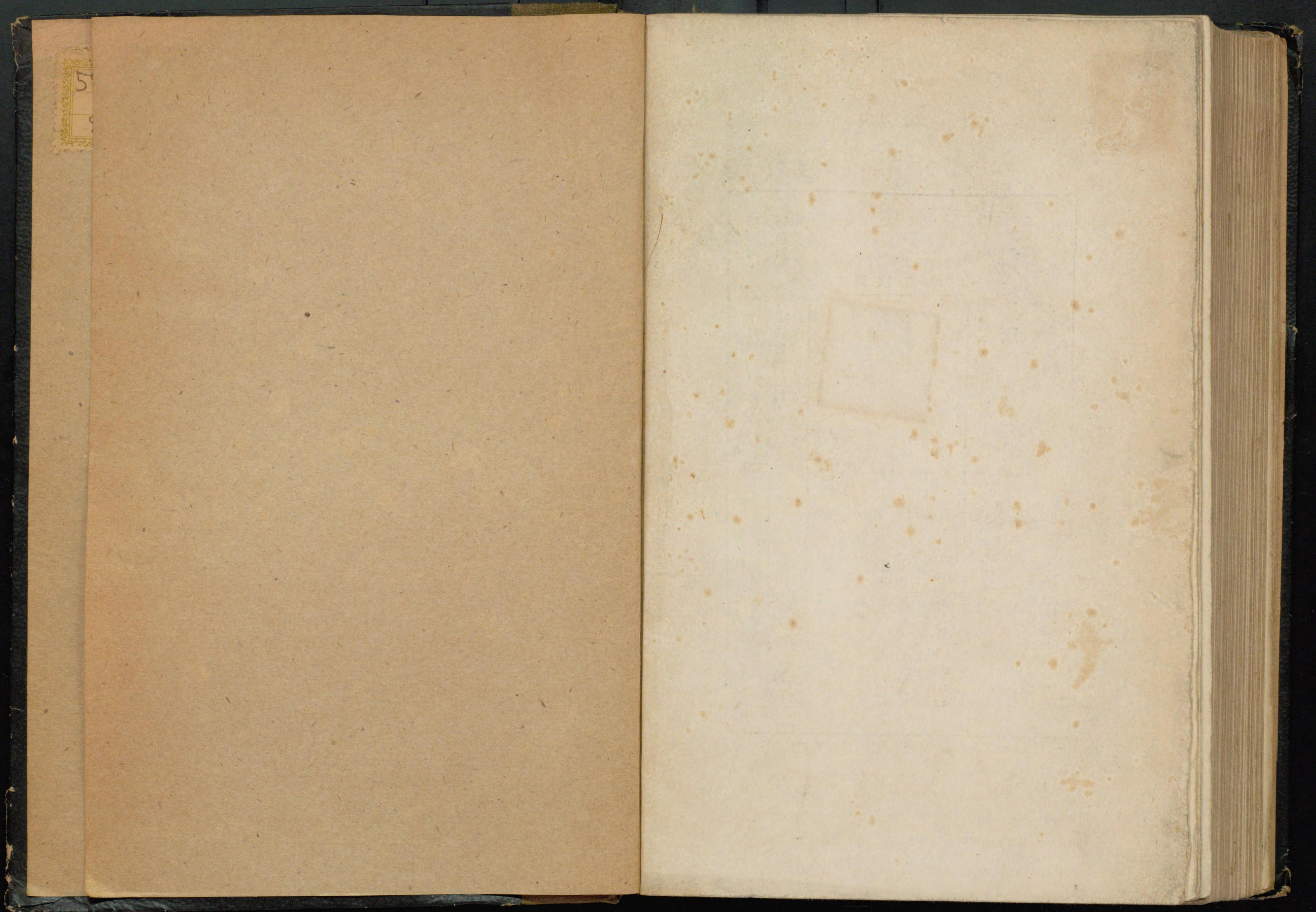
印刷者

東京市牛込區早稻田鶴卷町一〇七  
吉原良三  
電話牛込(一五)九四九番

大日本地誌大系新編鎌倉志・鎌倉攪勝考

非賣品







593  
8



